自覺してゐたかは疑問である。或はその點で却つて歴史の素材としては、そのまゝ取り入れ得るかも知れないが。しかし兎に角本書全體を通讀し、又その編纂の趣意を考へる時、我々が當時の幕府側の立場、少くとも會譯社同人の見識を、歴史的に理解する事は可能であらう。（菊判）四六一頁、岩波書店發行、定價五圓）〔時野谷〕

●初島の經濟地理に關する研究

内田寛一著

近來地理學に於て地誌の研究が盛行してゐるが、地域が一つの明確なる單元をなす事は地誌を書くに最も都合のよい處で、海洋によつて孤立してゐる島に關する研究が續々と發表されて來た。本書も亦その一つで、初島は熱海の海上三里相模灘の一隅にあつて周回一里足らず戸數四十一戸耕地十五町歩餘と云ふ眞に蓬壺たる一小島である。しかし從來共産村落である等と云はれ一般の注目する處であつたが之に就いて堂々二百四十頁に達する大册を物せられた著者の努力には先づ敬意を表すべきであらう。しかも之は初島に關するすべての地理上の問題を取扱つたのではなく、文祿の檢地帳、貞享の初島村鏡等と今日の狀態との比較により初島の耕地と戸口との關係を主とし水産を副とする歴史地理的研究であり、微に入り細を穿つたものでその所論は地理學者は勿論の事史學者殊に經濟史家の顧みるべき多くのものを含んでゐる。以下内容を簡單に紹介せんに、記述は先づ初島の戸口の增減に始る。地形地質氣候と云つた一般地誌の型を破つてゐるのは注意すべき事である。戸口は從來信ぜられた如く不變ではなく文祿四年には二十八戸で天保以來は今日の戸數に增加したもので人口も天和より寛政頃の二百十餘人が昭和七年三二〇人となり一戸當人口も昔の五人より現今の七人に增加した事が明かにされた。德川時代に於ける人口停滯の原因としては出婚が多かつた事、産屋の存在が間曳の弊風を助長したであらう事、青年組による女子接近の困難等を史料と該博なる民俗學的知識を援用して述べその根本的原因は之を經濟生活の逼迫に求むべきであるとし、かくて耕地の分析に入り耕地は從來畑地のみで文祿以來段別の變動が少く、又品等は上中下三階次に分たれ上畑が四五％を占め品等が高い事又宅地は一階次でその石盛は九斗五升に達し畑は各八、七、六斗で何れも他地方に比して石盛が大である而も耕地と戸口との關係は現在一戸當三反代が五〇％以上であり之も亦他地方に比し狹少であつて人口增殖の困難なる事を明らかにし尙文祿以來の變化は各戸の持分が平等化してきてゐる點で全國の趨勢と反對である。又耕地は文祿以後約二倍にも細分されて來たが之は比較的廣い畑を分割して狹い畑を作つたからでありそれは分家に基くものであらう。更に之を畑の品等から見れば上畑の廣いものが分割された事を示してゐる。品等の分布は聚落に近く、傾斜の緩い北部が上畑、南部が下畑中部が中畑である事を示してあるが今少しく詳細な自然地理的說明を望む人もあらう。聚落は島の北部にあり海岸と臺地との中間數段の段丘上に集村をなしてゐる。宅

地一戸當平均一畝餘で他地方に比して狹少であるが文祿以來今日では僅少ながら增加してゐる。又その方向も平等化に進んだものである事を認められてゐるが耕地及宅地平等化の理由は說明されてゐない。次に土地分割より分家又血統關係の究明に入り宅地が相隣つてゐるものを含して昔の分割前の面積に一致する如き場合は兩者に本家分家の關係があらう事を推定し苗字や家標によつて之がある程度迄妥當である事を明にされ又耕地が相隣つてゐる場合その大なる方の所有家が小なるものゝそれの本家であらう事を可及的に證明された。斯くの如き研究法は全く著者の獨創に拘り、史料に乏しい農村の土地所有關係の變遷を追跡するに效果大なるものであらう。かくて耕地問題の總括として耕地の區劃と地割に及び區劃が割合に規則正しい事その區劃が地形的に動かし難い傾斜面の林や、聚落との最短距離を取つた道路等によつてゐる事は開發當初の古き地割を傳へるものであらうとし各筆の段別を調べると條里制に於ける基本區劃である一段二畝のある分數に歸納する事ができると云ひ又島では一段を四百尻と稱する便法を用ひてゐる事がわかる。この尻は一町五百代なる我國上代の田積代と何等かの關係があるものではなからうか著者の御敎示を仰ぎたい。初島の開發はしかし奈良期に遡るべきか不明であるが少くとも足利時代には初木神社が存在した事は確かとされる。次に副業の水產業に轉じ初島の漁船は村持六艘と昔は江戸通の大型船二或は三艘あり之に對する年貢は耕地のそれの二割に當る四石であつた事を村鏡によつて明にされ漁業の盛衰が概觀されてゐる。最後に初島現時の經濟生活の一般が述べられる。耕地、森林等の利用は集約の極に達し之により大體自給自足して來たが時世の變化に從ひそれが困難となつた結果補ひとして水產業が發達し又石花菜の浦請により莫大の年收を得かくて德川時代に比して多數の人口を收容して尙平和なる生活を送つてゐる。更に島民の共同生活は他の一般漁村にも見らるゝ處で共產社會の特色を有つとはなし難いと結ばれてゐる。論述極めて平易助くるに四葉の別圖と多數の寫眞とを持つてせられ、しかも各章は互に前章の論理的發展として首尾一貫してゐる。讃譯ならざる科學的論著の少い我が人文地理學界に於て本書を得た事を慶ぶものは紹介者一人に止まらないであらう。たゞ寫眞には自然地理的事項のものが可成多數納められてゐるのに之等に關する說明が僅少であり或は殆んど無いものもあつて一般に自然地理的記述が簡單である事又文祿以前からの狀態や社會生活全體に關する叙述が少い事は著者が問題を經濟地理に限られ全文の論理的統一を保たんが爲に故に除かれたものと思ふが之等をも含めて將來完成したる初島の地誌を得ん事は我々の希望して止まない處である。（來倉）